



事業計画及び成長可能性に関する事項 - 中期経営計画 Vision2027 -

2024年12月13日

証券コード：3653（東証グロース）



本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものです。

当該情報および仮説に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等により、実際の業績等は本資料記載の内容とは異なる場合がございます。

INDEX

1. 会社概要
2. Vision2024振り返り
3. 新中期経営計画 Vision2027

1. 会社概要

イメージングAIで、 世界をもっと豊かに

モルフォは、イメージング・テクノロジーの研究開発型企業として、2004年にスタートしました。
コンピューターサイエンスは実学であるという信念に基づき、最先端の研究を理論で終わらせるのではなく、それを社会のニーズに適應させ、世の中に生かしていくことが私たちの使命であると考えています。

これまでに培ってきたデジタル画像処理技術と最先端の人工知能（AI）／ディープラーニングを融合した「イメージングAI」で、社会のさまざまな分野に貢献していきます。

私たちの企業活動における基本姿勢は、オープンイノベーション。
さまざまなステークホルダーと連携し、研究開発の成果を、実社会の課題解決への応用を通じて、世界をもっと豊かにするために役立てていきます。

これからも、革新的なイメージング・テクノロジーを創造する集団として、イメージングAIの可能性に挑み続けます。



Vision

Rise above what we see, to realize what we feel

-人間の目を拡張し、感動に満ちた世界を実現しよう-

Who We Are

新たなイメージング・テクノロジーを創造する集団として
革新的な技術を最適な「かたち」で実用化させ、
技術の発展と豊かな文化の実現に貢献します。

Vision

Rise above what we see,
to realize what we feel

一人間の目を拡張し、感動に満ちた世界を実現しよう

Mission

技術革新、感動と喜び、さらなる成長

Values

チャレンジ精神、当事者意識、チームワーク

モルフォは、イメージング・テクノロジーの研究開発型企業として、2004年にスタートしました。コンピューターサイエンスは実学であるという信念に基づき、最先端の研究を理論で終わらせるのではなく、社会のニーズに適応させ、世の中に生かしていくことが私たちの使命であると考えています。これまでに培ってきた画像処理技術と最先端の人工知能（AI）／ディープラーニングを融合した「イメージングAI」で社会の様々な分野とお客様に貢献していきます。

私たちの基本姿勢は、オープンイノベーション。お客様とステークホルダーと連携し、研究開発の成果を、実社会の課題解決への応用を通じて、世界をもっと豊かにするために役立ちます。モルフォは、これからも、革新的なイメージング・テクノロジーを創造する集団として、「イメージングAI」の可能性に挑み続けます。

創業
2004年

東証マザーズ上場
(現グロース市場)
2011年

グループ社員
165人

海外拠点
5カ国

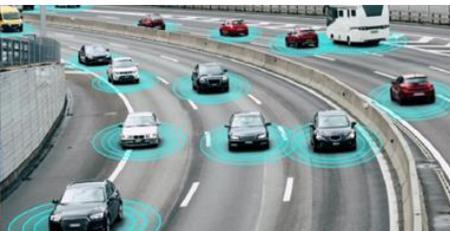
特許
140

海外売上比率
60.7%

連結売上高
33億円

研究開発費率
(売上高比)
11.4%

※2024年10月期





代表取締役社長
平賀 督基
Masaki Hilaga

代表メッセージ

近年のネットワークおよびデジタル技術の発展と、スマートフォン等の普及によって、私たちの視覚情報処理を取り巻く環境が急激に変化しています。自分自身の目とは異なる第2の目として、どこでも画像を撮影し、保存し、編集し、共有することを可能にする、新たなライフスタイルとそれを現実にするための技術開発が求められています。

研究で培った専門知識や経験を実世界に役立てたいという思いのもと、画像処理技術を専門に研究を行ってきた東京大学出身の技術者が中心となって当社を設立しました。コンピューターサイエンスは実学であるという信念に基づき、最先端の研究をただ理論で終わらせるのではなく、それを社会のニーズに適應させ、世の中に生かしていくことが私たちの使命であると考えております。スマートフォンをはじめとして、車載カメラ、セキュリティ、映像制作、医療などのエッジデバイスを中心に様々なプラットフォームにおいて画像を認知、処理、そして表現するニーズが高まっています。そういった一連のプロセスを通して、効率的且つ高品質な次世代のデジタル画像処理フレームワークを提供し、デファクト・スタンダードとすることを目指しております。

創業よりスマートデバイス向け画像処理製品を数多く開発し、
累計ライセンス数30億突破

AI画像処理技術を日々進化させ、車載、建設、監視カメラ、
OCR等幅広く応用数を拡大



2004 - 初代ロゴ

2004

2004 -

株式会社モルフォを設立

2004年10月
「PhotoSolid®」 &
「MovieSolid®」発表

2006年6月
NTTドコモ端末への
搭載開始

2007

2007 -

株式会社NTTドコモと
業務資本提携

2009年9月
累計ライセンス数1億突破

2010年7月
累計ライセンス数2億突破

2011

2011 -

株式上市
「東京証券取引所マザーズ」



2012年2月
Morpho US, Inc. 設立

2013年9月
累計ライセンス数5億突破

2014

2014 -

株式会社デンソーと
資本業務提携

2014年12月
ディーラーニングによる
画像認識技術を開発成功

2016年3月
累計ライセンス数15億突破



2017

2017 -

世界最速級の
ディーラーニング
推論エンジン
「SoftNeuro®」を発表

2018年8月
Morpho China, Inc. 設立

2018年9月
累計ライセンス数25億突破

2018年10月
Top Data Science Ltd. を
子会社化



2019

2019 -

累計ライセンス数
30億突破

2019年6月
クアルコムとモバイルカメラ
機能強化で提携

2019年12月
株式会社モルフォ
AIソリューションズ設立



2020年6月
Morpho Taiwan, Inc. 設立

2021年9月
株式会社ミックウェアと
資本業務提携

NOW

2022 - 現在

ソニーセミコンダクタ
ソリューションズ株式会社と
資本業務提携

2022年4月
本社移転

2022年4月
株式会社デンソー
「Global Safety Package3」
に採用

2023年1月
東大の「富岳」プロジェクトに
AI推論エンジンを提供

Top Data Science Ltd.

所在地 Kuortaneenkatu 2,
FI-00510 Helsinki, Finland
資本金 €2,500

Morpho Korea, Inc.

所在地 20F, 83, Uisadang-daero,
Yeongdeungpo-gu, Seoul 07325
資本金 ₩ 100 million

Morpho US, Inc.

所在地 333 West San Carlos Suite 600
San Jose, CA 95110
資本金 \$ 650,000

Morpho China, Inc.

所在地 No.9289,Building A 1501 Jingji
Binhe Shidai,Binhe Avenue,
Futian District, ShenZhen.
資本金 150,000,000JPY

Morpho Taiwan, Inc.

所在地 10F., No.150, Sec. 2,
Nanjing E. Rd., Zhongshan Dist.,
Taipei City 104, Taiwan (R.O.C.)
資本金 14,000,000NTD

株式会社モルフォ AIソリューションズ

所在地 東京都千代田区神田錦町 2-2-1
KANDA SQUARE 10階
資本金 100,000 千円

株式会社モルフォ

所在地 東京都千代田区神田錦町 2-2-1
KANDA SQUARE11階 WeWork内
資本金 1,858,943千円

ソフトウェア・ライセンス事業により収益の積み上げを実現

ロイヤリティ収入

- 各メーカーへ当社グループのソフトウェア製品を提供
- 各メーカー製品の出荷台数/期間に応じたライセンス料收受

開発収入

- 新製品・サービス開発時に、各メーカーからモルフォが開発を請負
- 一定の条件を満たせば当社グループ単独でライセンス展開

その他

- 各メーカーへ当社製品の実装支援を実施する開発サポート収入
- 各メーカーへ製品利用許諾後に技術的サポートを実施する保守サポート収入

収益構造

【クライアント】

スマートデバイス
スマートフォン、PC

車載機器メーカー
自動車OEM、Tier 1

DX
監視カメラ、建設

デバイス・メーカー他

ソフトウェア製品利用許諾
出荷実績/期間利用収入等

受託開発請負
請負収入/成果物権利共有等

実装支援/技術保守サポート
支援サポート収入

【モルフォ】

ロイヤリティ収入
57%

開発収入
41%

保守その他
1%

売上総利益

原価
(労務費)
(外注費)
(経費)

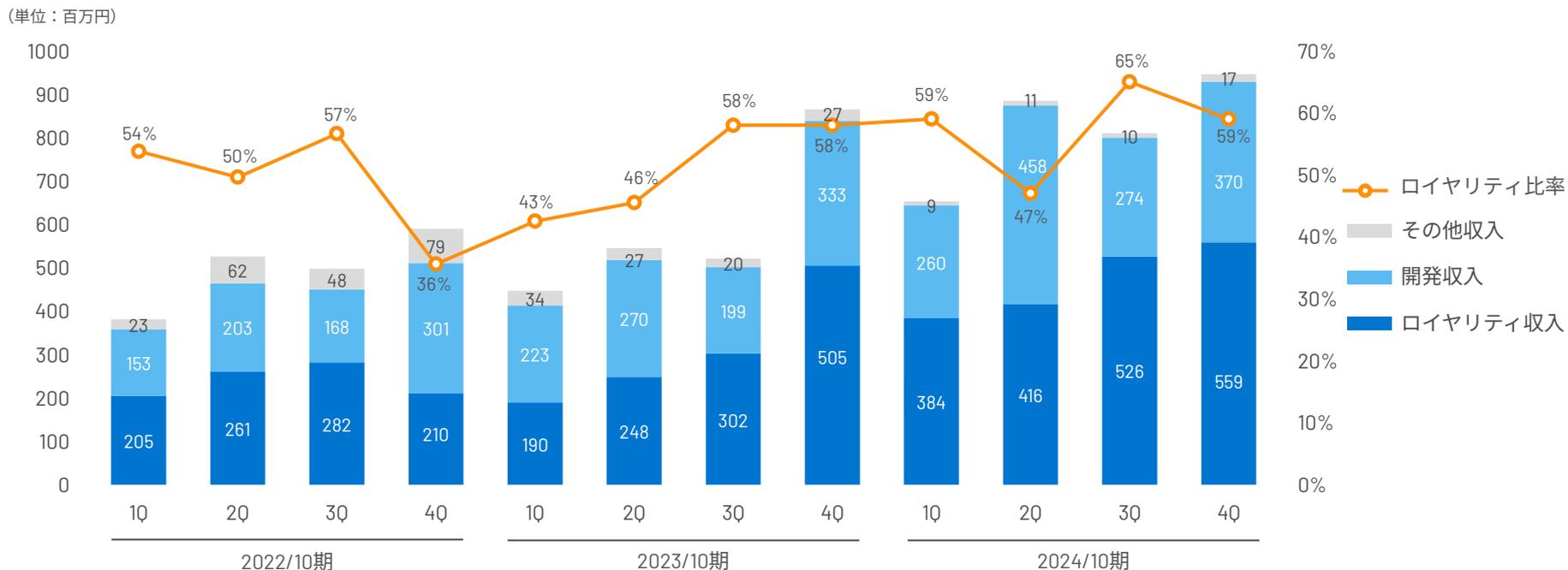
※%は、2024年10月期 連結売上構成比

売上収益構成（直近3か年）



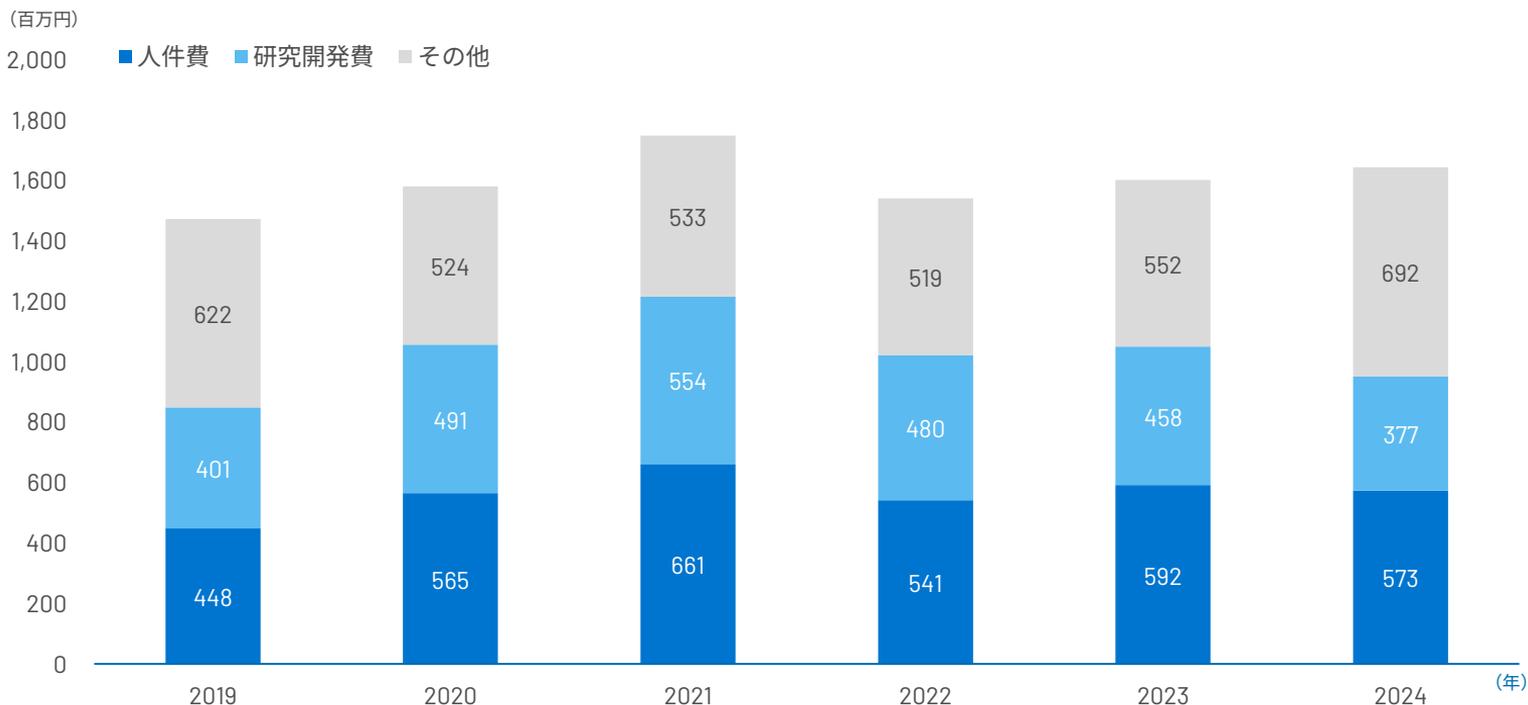
ロイヤリティ収入：スマートフォン・PC向けのロイヤリティ

開発収入：車載・DX向け研究開発支援、量産向け開発支援



販管費推移 (連結)

2024年10月期販管費は売上高の増加に伴い販管費比率▲17.4%減。研究開発費は、従前より進捗していた研究テーマの製品化に伴い一時的に減少した結果、売上高販管費比率▲7.8%減



2. 前中計 (Vision2024) 振り返り

連結

2021年度⇒2024年度（中計最終年度比較）

収益率の改善とコストの適切なコントロールにより、
中計最終年度で5期振りの営業利益黒字転換

売上高：1,730百万円⇒3,300百万円

営業利益：▲881百万円⇒257百万円

事業戦略

達成状況

SMART DEVICES スマートデバイス

選択と集中による効率的な売上・利益最大化

競争優位の商品を重点的に強化・顧客ニーズを即時把握し高確度の商談へ集中

主要スマートフォン・PCチップセットメーカーとの関係強化

未公開技術情報へのアクセス・ソリューション最適化・共同マーケティング

戦略的パートナーシップを通じた事業拡大

商品ラインナップ強化・開発リソースの最適化による効率化・新規顧客開拓

- ・中国拠点を中心に選択と集中により売上拡大、また販売力強化し顧客ニーズを即時把握・本社と連携し重点開発。
- ・スマートフォン・PCチップセットメーカーとの関係強化。パートナー活用も功を奏し、PC OEMでの採用も進捗。

事業戦略

達成状況

AUTOMOTIVE 車載モビリティ	既存顧客との連携継続・強化 共同研究開発を継続・拡大	<ul style="list-style-type: none">・大手センサーメーカーとのアライアンス推進・既存顧客との連携は順調に進捗。新規顧客の案件が拡大中
	自社商品によるロイヤリティビジネス事業化 独自商品開発および車載SoCメーカーとのパートナー連携	
	戦略的提携によるビジネス創出 資本業務提携締結等を活用した、既存ビジネスの付加価値向上と新規ビジネス協創を推進	

事業戦略

達成状況

DX デジタル・ トランスフォーメーション	AI-OCR技術を用いたビジネス拡大 文書系OCRを起点に、デジタルアーカイブ、BPOビジネスへ展開	<ul style="list-style-type: none">画像処理技術によるDXで建設現場プロセスを効率化NDLOCRを活用した市販ソフト「FROG AI-OCR」の提供。自治体、大学、図書館、BPO企業での利用拡大
	監視カメラ画像解析AIで安心安全なまちづくりに貢献 AIカメラによるバリアフリーの実現、駅の安全管理、リモートでのメンテナンス業務の効率化	

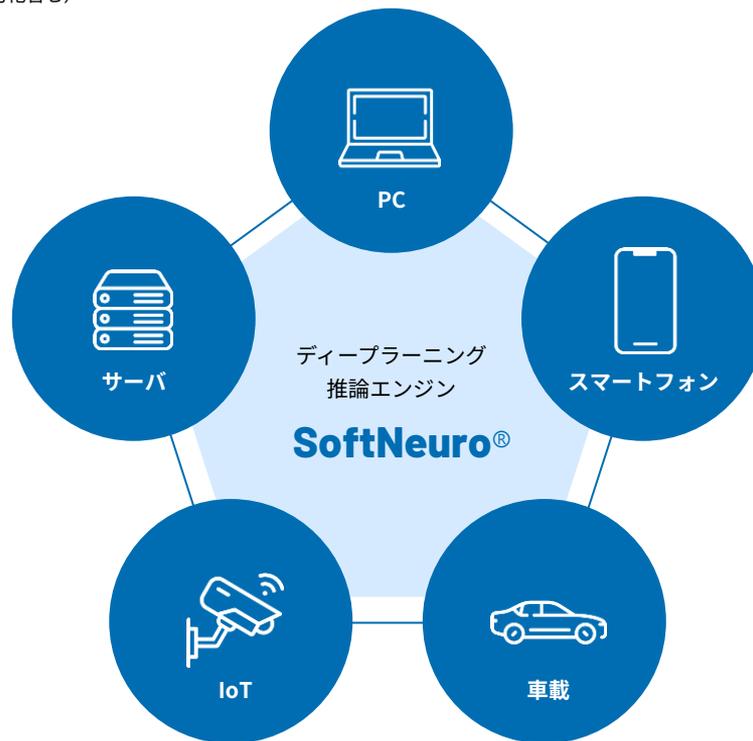
3. 新中期経営計画 Vision2027

さまざまな組み込み先への対応力 (SoCのアクセラレーター活用による低消費電力化含む)

モルフォ研究開発エンジニアの強み

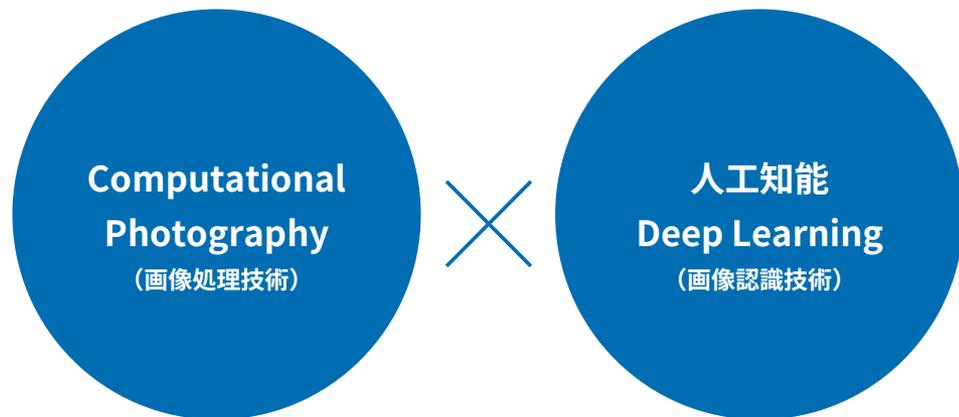
強固な開発チーム連携体制により、他社ではできない
「短期間での開発」「ソリューション提供力」

大手企業R&Dや国立機関から信頼・委託される
研究開発力 (CVPR、ICML国際学会へ参加)



CP×DL※による精度向上

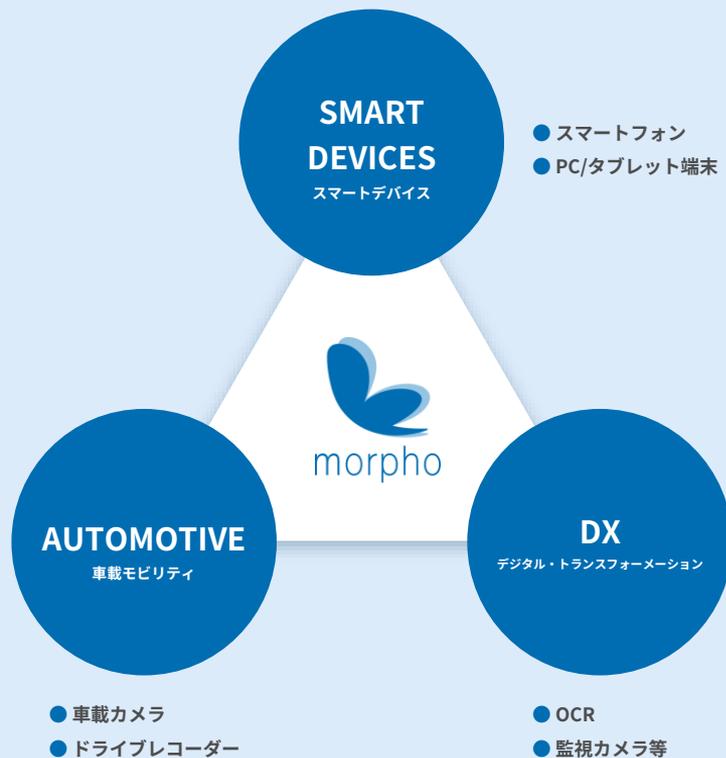
AIの精度向上に画像処理を利用



お客様から見たモルフォの価値

- 最新のAI技術ノウハウ・アルゴリズム提供
- 新規ソースコード受託開発からHW最適化まで提供
- 保有アルゴリズムを短期間でカスタマイズ提供
- 画像処理も用いることで高い精度を実現

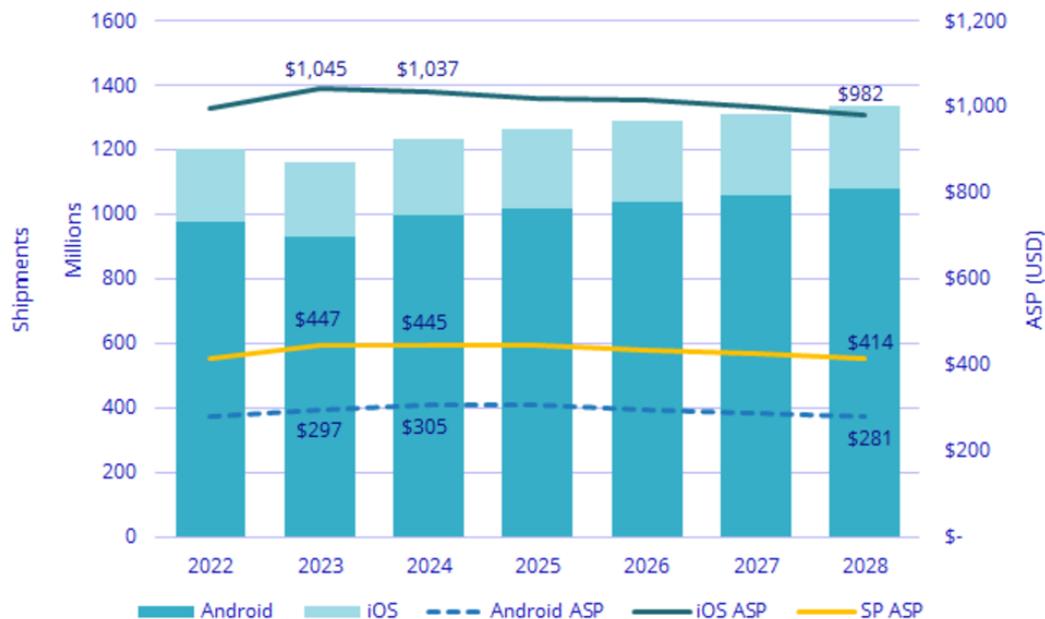
先進のイメージング・テクノロジーにより、
利便性・安心安全・生産性の向上に貢献する



市場環境 (SMART DEVICE)

2024年の出荷台数は前年比ベースで増加し、2028年に向けて堅調に増加を見込む

世界スマートフォン出荷台数



出典: IDC Worldwide Smartphone Forecast, 2024Q2

新興市場では、手頃な価格のAndroidスマートフォンが急速に成長しており、プレミアム市場では、AIスマートフォンが成長しており市場全体としては2028年に向けて増加傾向にある。

モルフォのコアコンピタンスである“イメージングAI”で車載業界の課題解決を目指し、市場でのプレゼンスを高める



※1 出所：矢野経済研究所「車載用ソフトウェア（自動車会社、自動車部品サプライヤー等）市場に関する調査（2024年10月9日）」
※2 海外含めると3～4倍規模を予測（当社調べ・推定）
※3 SAM×1/4（CASE概念領域の1/4が当社対象市場を推定）

※4 GX：Green Transformation（カーボンニュートラルと経済成長の両立を目指す取り組み）
※5 SDV：Software-Defined Vehicle（自動車を制御するソフトウェアの更新によって製造・販売後も継続的に進化する自動車をいう）
※6 V2X通信：Vehicle-to-Everything（通信で自動車と様々なものを繋げて連携を行う技術）
※7 SoC：System on a Chip（全体システムを一つのチップにまとめる技術集約型の半導体）

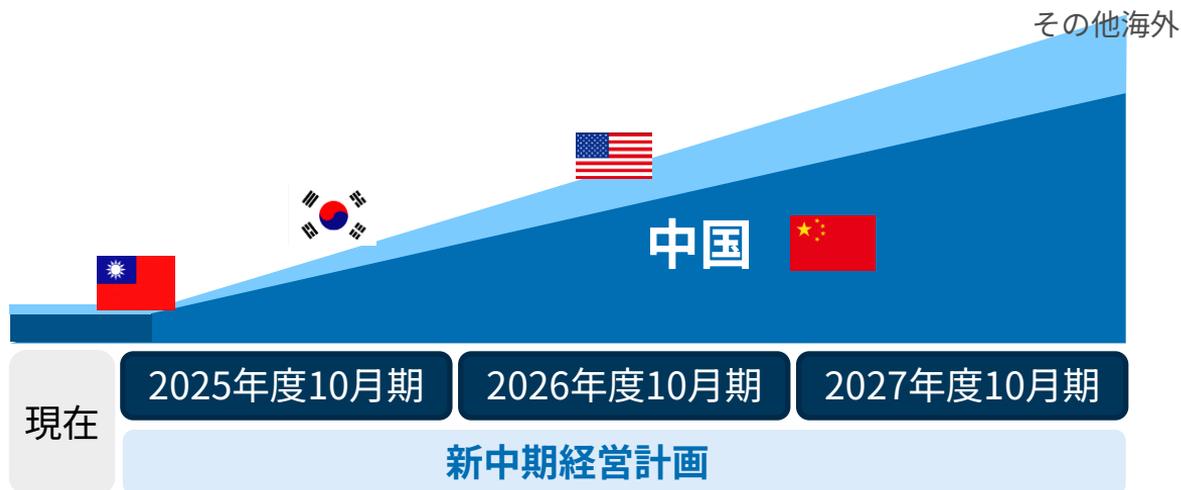
モルフォのコアコンピタンスである“イメージングAI”で建設業界の課題解決を目指し、市場でのプレゼンスを高める



※1 出所：富士経済グループ「業種別IT投資/デジタルソリューション市場2024年版」（不動産業は除く）
※2 試算ロジック：1顧客あたり1億円以上の売上高×アプローチ可能な建設業界上場企業166社以上にて試算

成長戦略 (SMART DEVICES)

スマートフォンを中心に中国向けが中心となるトレンドに当面変化はないものの、その他海外についてもPC、タブレット端末についても新中期経営計画期間で開拓する



成長戦略 (AUTOMOTIVE)



引き続き、日本国内の大手OEMやTier1との取引を拡大させライセンスビジネスを展開する。
また国内での実績をもとに、新中期経営計画期間に海外のOEMやTier1へアプローチする



成長戦略 (DX)

国内の建設系のDXを拡大していく。その他海外については新中計経営計画期間に工場におけるAIを活用した生産性向上や安全性確保など、新規事業拡大に取り組む



本中期経営計画で「Growth & Profitability」-収益力の向上と企業価値の最大化を目指す！

収益性

選択と集中により、
収益性の高い事業に注力



過去最高の売上及び利益を目指す

- ロイヤリティ比率の向上で収益性UP
- 開発収入の生産性向上

企業価値

コア技術を活かした新領域への
取り組み



コア技術を活かしたプロダクトアウトを
目標とした新組織立ち上げ

- 未来創造室の立上げ

収益性向上

■ 施策

- ライセンス比率の向上
- 開発収益の生産性向上

ライセンス比率向上



- スマートデバイスに留まらず他の事業領域でライセンスビジネスの確立
- プロダクトの継続改善による競争力強化
- 契約形態を長期に転換

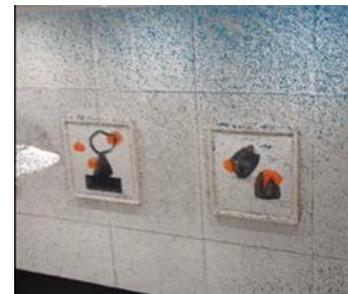
開発収益の生産性向上



- 人的投資を積極化し、従業員の付加価値創造を高める
- ナレッジの蓄積と活用に取り組む
- 顧客とのリレーション強化による継続的な開発収入の獲得

未来創造室のMissionと新しいプロダクトの創出

- テクノロジー主導型のプロダクト開発と顧客視点の事業創造
- ソフトウェアに留まらずハードウェアやサービスと連携した事業創造
- 未来に対しイノベーションを起こし続ける



SMART DEVICE | スマートデバイス

スマートデバイスの進化を、イメージングAIでリードする

モルフォは、携帯電話のカメラ性能を飛躍的に向上させる画像処理ソフトウェアの研究開発型企業としてスタートしました。その後、モルフォの画像処理ソフトウェアはスマートフォンに搭載され、2024年7月末時点で累計40億超のライセンス数を突破。

海外市場を中心に有力メーカーの製品力向上に貢献しています。

これからも、画像処理技術とディープラーニングが融合したイメージングAIで、スマートフォンのみならずPC、タブレット、ウェアラブルカメラなど、多様なスマートデバイスのさらなる進化をリードしていきます。

■ 事業戦略

01

選択と集中による効率的な売上・利益最大化

競争優位の商品を重点的に強化・顧客ニーズを即時把握し高確度の商談へ集中

02

戦略的パートナーシップを通じた事業拡大

商品ラインナップ強化・開発リソースの最適化による効率化・新規顧客開拓

技術紹介



Morpho Raw Image Refiner

静止画向けトータルソリューション

「Morpho Raw Image Refiner」は手ブレ補正からノイズ削減、トーンマッピングまで、モルフォの全画像処理アルゴリズムをRawドメインで再構築し、リ・イノベーションした最先端の静止画向けトータルソリューションです。



MovieSolid®

動画向け電子式手ブレ補正技術

「MovieSolid」は、IMUセンサもしくは動き検出技術「SOFTGYRO®」を活用した、動画向けの電子式手ブレ補正技術です。水平維持や高速再生、自動画角調整機能など最先端のニーズにも対応しています。



Morpho Auto Framing

動画向け表示領域最適化技術

「Morpho Auto Framing」は、映像中の指定した対象物に対し自動的にズームし表示領域を最適化する技術。低CPU負荷かつ低消費電力で、長時間のビデオ会議に最適なソリューションです。

活用事例

CASE1 スマートフォン世界トップメーカーへ技術提供

動画手ブレ補正技術「MovieSolid」は中国のトップスマホメーカー3社に搭載されており、「Morpho Raw Image Refiner」についても採用に向けた取り組みを加速しております。そのほか、中国の上位10社の全てのスマホメーカーに対して、パノラマ生成技術「Morpho Panorama」やノイズ除去技術「Morpho Raw Deep Denoiser」などの製品を提供しております。

CASE2 PCトップメーカーに認められた技術力

多様な働き方の普及に伴い、PCを利用したビデオ会議に対するユーザーのニーズが高まりました。モルフォの高画質・高性能・低消費電力という画像処理技術はPC業界でも最適な選択肢となっています。モルフォは、Intelに最初に認定されたISV(Independent Software Vendor)の一社であり、ビデオ会議向けに開発された画像処理ソリューションは、世界トップクラスのPC OEMに採用されています。

AUTOMOTIVE

車載・モビリティ

自動車向け最先端AIソフトウェアソリューションを世の中へ提供

多くの自動車OEM/Tier1がより安心・安全な自動運転(AD)/自動運転支援技術(ADAS)の開発を日々強化しています。モルフォは2015年からのデンソーとの共同研究開発を皮切りに、車載分野に注力しており、多数の自動車OEM/Tier1との取引を拡大中です。車室外カメラ向けに加えて、車室内カメラ、テレマティクスの3分野を中心に、AIソフトウェアソリューションを提供し、安心・安全な社会の実現に貢献していきます。

I 事業戦略

01

自動車OEM/Tier1各社とのビジネス拡大

先行技術開発をOEM/Tier1各社へ直接ご提供する体制を整備

02

最先端技術を標準AI製品として顧客別に提案

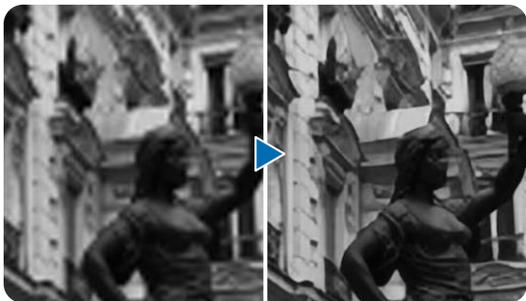
最先端のAI技術を、モルフォの標準製品としてラインナップ。
顧客に合わせてカスタマイズし、スピーディーに提供

03

パートナー企業との戦略的提携によるビジネス創出

パートナー企業との共同研究開発やビジネス開発を通じた新規ビジネス協創を推進

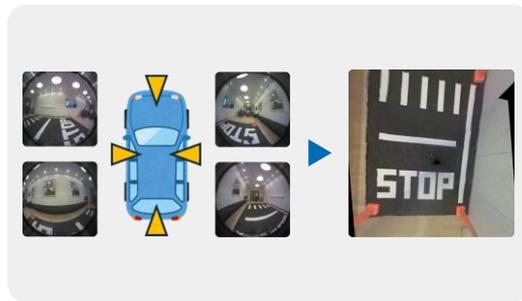
技術紹介



Morpho Deep Deblur™

AI画像鮮鋭化技術

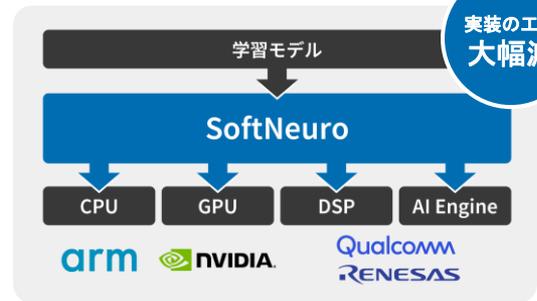
画像のブラー（ブレ、ボケ）を除去し、鮮鋭化するAI技術です。近年、高解像度化が進む車載モニタ（HMI）に対して、低解像カメラ映像をAIで画質改善し、美麗に表示することを可能とします。



Morpho Visual Calibrator™

オートキャリブレーション技術

車載カメラ同士の位置関係を画像情報より推定する、AIを用いたキャリブレーション技術です。一般的に、自動車製造時において、車載カメラの個体差を吸収するため、マーカーを利用したカメラキャリブレーションが行われます。近年、この設備費用がカメラやセンサー数の増加に伴い膨大になるという課題があります。本製品はこうした専用設備を低減するための、オートキャリブレーション技術を提供します。



SoftNeuro®

ディープラーニング推論エンジン

マルチプラットフォームに対応した世界最速級のディープラーニング推論エンジンです。実行時に、モルフォ保有の特許技術を利用して推論処理の最適化を行うことで、各種車載SoC上で高速・高精度な推論を実現します。

活用事例

CASE1 大手自動車Tier1と共同研究開発

大手自動車Tier1とモルフォは、2022年から共同研究開発を開始。両社のR&Dエンジニアが一体となり、最先端のAI技術の研究開発・社会実装に取り組んでいます。

CASE2 大手自動車OEMとの先行開発

過去の研究開発・先行開発の実績を活かし、大手自動車OEMとの先行開発を複数進行中です。AD/ADAS分野に限らず、車室内モニタ（HMI）用途や車体制御用途など、幅広い技術開発に携わり、自動車OEMの最先端AI技術開発に貢献しています。

DX | デジタル・トランスフォーメーション

データ駆動で企業のビジネス変革と事業成長を支援する

私たちはこれまで画像解析の技術を起点に、モノのデータ化からデータベースの構築、そして活用までを、

一貫したデータ解析ソリューションとして様々な業界向けに提供してまいりました。

利用事例はインフラメンテナンスのAI化やバックオフィスの業務効率化、建設現場におけるAI/画像処理技術によるDXを活用した業務プロセスの改善等多岐に渡ります。

既存ビジネスの業務改革によるオペレーション高度化から、事業構造変革による新たな収益基盤の創出に至るまで、最先端のデータ解析テクノロジーを駆使する伴走パートナーとして、これからもお客様の成長と発展に貢献してまいります。

I 事業戦略

01

AI-OCRを起点としたソリューション拡張

文章系の更なる強化、様々な表フォーマットのCSV変換、そして自然言語処理へと発展

02

AIカメラを起点としたソリューション拡張

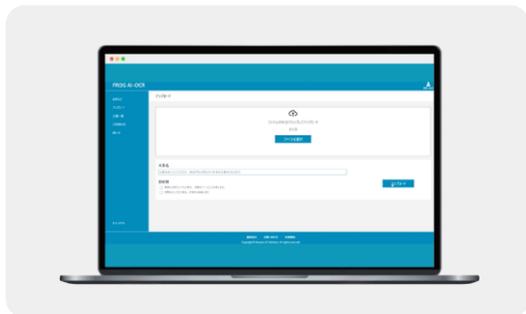
安全管理から業務効率化まで、工場や倉庫、発電所、医療、交通など各現場の利用に適した機能を順次拡張

03

企業の個別課題を起点としたDX支援領域の拡張

画像に加え点群などのセンサーデータを活用強化、様々なデータを複合的に取り扱うことでより難易度の高い問題へ対応

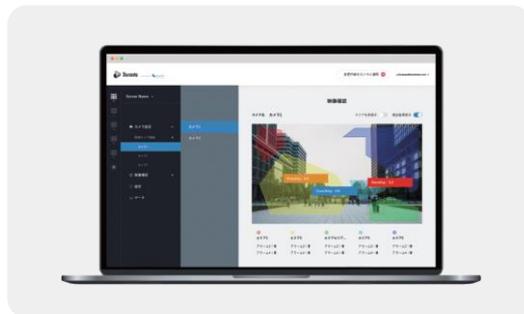
技術紹介



FROG AI OCR

独自のレイアウト認識で あらゆる非定型フォーマットに対応

縦書き横書きの混在文章に対応、英字記号など様々な文字種に対応、多段組に対応、文章&帳票に対応、明治大正の旧字旧仮名に対応、レイアウト認識機能を搭載、読み順推定機能を搭載、表解析機能を搭載、透明テキスト付PDF作成機能を搭載。



Duranta

AIカメラでエッジAI処理

i-PRO社のAI基盤が搭載されたカメラで様々なAIモデルを動かすシステムを展開、カメラ単体で転倒検知や侵入検知、アラーム発報まで完結します。またエッジ構成以外では、オンプレサーバーverやクラウドサーバーverを展開しており、ほとんどのカメラメーカーに対応、検知事象のカスタマイズも可能。



Digital Twin System

デジタルツインシステムで遠隔点検

画像データと点群データを用いてリアルな現地の状況をデジタル上に3Dモデル展開。高解像度の画質をビューアーシステム上に保持することで、現地に赴かなければわからなかったような細かな損傷の点検まで遠隔でオンライン上から行うことが可能になります。

活用事例

CASE1 大手製造メーカーの業務安全管理にAIカメラを活用

工場内では一人で作業を行うケースが多く発生し、スタッフの体調不良時に発見の遅れから事故の発生に繋がるのが課題視されています。本ケースでは工場内で問題が発生し得る対象スペースに、転倒検知AIシステムが搭載されたセキュリティカメラを導入し、転倒やうずくまりの姿勢をアラーム対象として、問題事象が発生した際には管理スタッフに通知がいくようにすることで、工場内の安全管理が保たれています。

CASE2 建設業界向けにカメラによる高精度3次元点群生成技術を紹介

高精度なキャリブレーション手法と最新のAIベースの技術を組み合わせ、既存手法よりも高精度な3次元再構成を実現する手法で研究開発を実施。

Appendix

競合先	A社	B社	C社
所在地	中国	スウェーデン	日本・東京都
主な競合領域	静止画	動画	車載組み込みソフトウェア・ライセンス
事業領域	コンピュータビジョンアルゴリズムと技術ソリューション提供 (スマートフォン、スマート車載、スマートホーム、スマートリテールなどの多様なカメラ付きAIoT(AI+IoT)デバイスメーカー向け直販)	スマートフォン、ボディーカメラ、スマートグラス、ドローン、ロボットビジョン&産業オートメーション、自動車、チップセット&スマートカメラモジュール、セキュリティ&監視、スマートウォッチ、オンラインビデオプラットフォーム等	車載カメラの画像から歩行者や車両などを検出する画像認識ソフトウェアの開発
売上高	13,083百万円 (2023年12月31日) ※2023年平均レート：1元=19.52円	752百万円 (2023年12月31日) ※2023年平均レート：1SEK=12.85円	494百万円 (2024年6月30日)
従業員数	803名	34名	32名

No	リスク項目	リスク内容	顕在可能性 /時期	影響度	対応策
1	新技術及び 新製品の開発	<ul style="list-style-type: none"> ① 既存技術の陳腐化 ② 競合製品の登場 ③ 製品投入の遅延 ④ 市場ニーズとのミスマッチ ⑤ 開発環境の急変 	中/中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> • 独自の画像処理技術を強みとして、ディープラーニング（深層学習）技術を初めとした製品・技術開発への取組み • 有能な人材の積極的採用による開発技術部門の有能な人材の確保と育成
2	知的財産権	<ul style="list-style-type: none"> ① 他者による当社グループの権利の侵害 ② 当社グループによる他者の権利の侵害 	中/中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> ① 特許の獲得と保護 ② 第三者の知的財産権を侵害しないよう十分な調査のもとにした製品開発
3	特定の市場/ 顧客への依存	<ul style="list-style-type: none"> • 特定市場の成長鈍化や後退 • 主要顧客との取引環境の変化による業績の変動 	高/短期	大	<ul style="list-style-type: none"> • 取引先との継続的で良好な関係の維持 • 様々な地域/用途/顧客への取引展開を加速しリスク分散
4	事業成長	中期経営計画で設定している事業戦略が、経済環境の変化等の影響により計画どおり進捗しなかった場合に、当社グループの事業成長に及ぼす影響	低/不明	中	外部環境を注意深く観察しながら、高い技術力等の当社資産を有効活用して事業戦略を進捗させる。

No	リスク項目	リスク内容	顕在可能性 /時期	影響度	対応策
5	海外事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ① 中国などのカントリーリスク^(注1)や海外紛争などの地政学リスク^(注2)が顕在化した場合の、半導体の供給減少や車載ビジネスへの影響に起因する当社グループ及び顧客、協力会社等の事業の中断 ② 為替相場の変動の影響 	中/不明	大	<ul style="list-style-type: none"> ① 様々な地域／用途／顧客への取引展開、グローバルな経営体制の構築、情報収集体制を含む内部統制の強化 ② 為替リスクを低減するための為替予約などリスクヘッジ
6	提携及び買収	他社との事業提携・資本提携及び他社の買収において、期待した収益や成果を十分に得られなかった場合の当社グループの事業展開及び業績、財務状態への影響	中/中長期	大	期待される収益（リターン）、提携先のDD等を通じたリスク評価による、提携時の意思決定における十分な検討、及び提携・買収後も円滑な事業遂行を阻害する要因を早期に洗い出し対処
7	内部管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ① 海外子会社の内部統制の不備 ② 管理部門の人材確保を含んだ管理体制の不備 ③ 役職員の不正及び不法行為の発生 	低/不明	中	海外子会社も含めた内部統制システムの適切な運用、充実、強化

No	リスク項目	リスク内容	顕在可能性 /時期	影響度	対応策
8	情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ① 当社グループ固有の技術情報等又は当社グループが顧客から受領した技術情報等の漏洩等 ② ランサムウェア等による、当社グループが保有する技術情報等へのアクセスの遮断 	中/中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役職員の研修及びセキュリティ訓練などの実施 ・ エンドポイントセキュリティをはじめとする体制の強化
9	自然災害及び感染症等	<p>以下の事象の発生に伴う事業の中断</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地震及び台風等の自然災害、事故、火災等 ② 感染症の感染拡大 	低/不明	大	<ul style="list-style-type: none"> ① 事象の発生内容に応じて対策本部設置する等、グループ一体で対応を行われるよう体制を整備 ② 従業員の安全確保、社会的要請への最大限の協力、事業遂行の維持を目的として「新型コロナウイルス感染予防対策」ガイドラインを策定し、これに沿って組織的な感染予防対策を実施

注1：カントリーリスクとして、法律・規制・税制変更、政治・経済情勢の変化、異なる商習慣等により、業環境が悪化するリスクを想定しています。

注2：地政学リスクとして、紛争・テロ等による特定地域が抱える政治的・軍事的な緊張の高まりが、地理的な位置関係により、その特定地域の経済又は世界経済全体の先行きを不透明にするリスクを想定しています。

リスクの詳細については、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

連結PLサマリー（2024年10月期）



- 連結売上高：ロイヤリティ収入の増加（前年同期比+640百万円）、開発収入の増加（前年同期比+337百万円）
- 連結営業利益：ロイヤリティ収入、開発収入の増加および開発効率の改善により、継続して黒字化
- 連結経常利益：持分法投資利益の増加により、前期比490百万円の改善
- 連結当期純利益：上記利益の影響および繰延税金資産計上により、前期比601百万円の改善

(単位：百万円)	2023/10期 通期連結業績	2024/10期 通期連結業績	増減
連結売上高	2,383	3,300	+917
連結営業費用	2,627	3,043	+416
連結営業利益	△ 244	257	+501
連結経常利益	△ 192	298	+490
親会社株主に帰属する 連結当期純利益	△ 300	301	+601

※増減額は百万円未満切捨て

過去最高売上を更新し、全セグメントで増益

- 海外ではスマートフォン・PC 向けのロイヤリティ収入が引き続き拡大する見込み
- 国内では車載・DX 向けの受託開発収入を伸長させ、将来のライセンスビジネスに繋げていく
- 新たな独自製品を市場に導入し、売上を創出していく

(単位：百万円)	2024/10期 通期連結業績	2025/10期 通期連結業績予想	増減
連結売上高	3,300	3,700	+399
連結営業費用	3,043	3,320	+276
連結営業利益	257	380	+122
連結経常利益	298	410	+111
親会社株主に帰属する 連結当期純利益	301	320	+18

- 本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。
- 本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。また、これらの将来予想に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本資料のアップデートは、2026年1月下旬頃を目途に開示を行う予定です。

